

思う形を表現しただけなのでしよう。私たちの話す言葉が自然と文法に沿っているのと同じです。神の調和“というものが無意識のうちに頭の中に刻み込まれているのです。だから直感的に適切な比率を選び出すのです。ルネッサンス以降は人体がデザインの基準になりました。



ミケランジェロ「アダム」の創造」

しかし比率は変わっていません。臍から頭までと足の先までの比率はほぼ3対5です。普段は特に意識はしなくても誰もがこの比率を分かっているのです。人は建物に自己を投影するかのよう体の一部と同じ名前を使いました。

建物の面は“フェイス”測量の単位は“フィート”更にエッフェル塔のように人体そっくりの建物まであります。エッフェル塔は人間の形をしています。勿論目や鼻がある訳ではありません。自分の姿を建造物に投影するのは人間だけではありません。自身の羽と同じ色の物を集める鳥もおります。人も鳥も自身を投影しているところは同じです。

人が作った物は更に工夫があります。建造物を人体に似せただけではいいのです。人体と同じ動きを表現しようと細部に趣向を凝らしてきました。比率やパターンだけではなく魂が宿ったものこそ美しいのです。

音楽、目に見えない美、空中を伝わる音の波が人の心を弾ませます。音の中にもやはり数学が潜んでいます。

昔ギリシャのピタゴラスは鍛冶職人の様子を見て音と数の関係に気付きました。重さの違うハンマーの音、12ポンドのハンマーの音、9ポンド、6ポンド・・・それぞれ違う音がした。そして一緒に鳴るとハーモニーを構成した。6ポンドと12ポンドのハンマーは同じ音がするが1オクターブ違う、弦を使うと分かり易いでしょう。張った弦をはじくと音が出ます。

そして弦を等分した時協和音が生まれます。真ん中を抑えて2分するとオクターブ、3分すると4度4分すると5度、弦を正しく等分しないと不協和音が生まれます。この比が音階のもとになっているのです。

中世の建築家と作曲家は建造物と音楽を結びつけて考えました。例えば黄金分割を音楽に当てはめるとオーム貝の音になります。



オーム貝の音

昔ノートルダム寺院には60人ほどの聖歌隊がいて建物の各部分の比率を音にした音楽を歌っていました。設計自体が音楽を基にしています。3度や4度や5度といった音程比をそのまま建築の比率に移し替えて使ったのです。建造物と音の関係か

らも美には数字が欠かせない事が分かります。でも全てではありません。数学的な原則は確かにある、でもそれだけでは捉えることは出来ない。美はもっと不確かなもの。不確かだから美は人によつて違うのです。

科学は多くのことを教えてくれます。美とシンメトリーの関係、自然界のパターンについて、そして建物や音楽、自然界に存在する比率について、しかし美しいものをいくら細かく計測分析してもそれだけでは不十分です。だから結局美は“見る者の目にも宿る”といわれるのでしよう。それだけでなく美しいと感じる事は、この世界を知覚する為のプロセスなのかもしれません。

美は動きの中に在る、たとえ失敗してもそれ自体が成功と同様に美しい。雨の日は太陽が待ち遠しいけれど、雨も美しい。美とはなにもかもが満足な状態を指すのではありませぬ。音楽であろうが建築であろうがその物が見る者に働きかけ、見る者はその中に自分自身を投影する、その過程の中に美があるので。主体と客体が共鳴し一つに結び付くと、人はそこに美を感じるのです。

結局美の問題は個人の思考の問題であり、一筋縄にはいきません。しかし解明出来ずとも美しさに変わりはないのです。

(TV デイスカバレッジHより引用)

グループ 飛桜会展 児玉八千穂

二月四日〜九日に東京都中央区京橋の「ギャリソンレイユ」にて「第五回 桜会展」(小作品展)を行いました。児玉(日本画)と今年からご参加の水野美預子さん(水彩画)、他に新世紀、示現会、朱葉会からそれぞれ女性会員二名ずつが出品の、いわば他公募団体との実験交流女流展です。



今年で五回目を迎えました。この会には有楽町の「朝日アートギャラリー」(三年前に廃廊)で、「公募美術団体 新会員選抜展」という、様々な公募団体で会員になったばかりの人を集めて他流試合をさせよう、との企画があり、児玉はまたまた二〇〇七年に出品させて頂きました。そのご縁で二〇〇九年に実験小作品展「第一回飛桜会展」の運びとなりました。

コンセプトは「公募展の大作ではなかなかチャレンジ出来ないことを自由に試そう」ですので、皆がどのような作品を出して来るか、初めて行った時は、果たしてまとまりがつくのかドキドキでしたが、色々なアプローチが集まって、バラエティーに飛んだ大変面白い展覧会となりました。五年の間にメンバーの入れ替えがあつて、発足時のメンバーは八人中四人になつてしまいましたが、お陰さまで会派を

超えた仲間とのこの会によつて、お互いに刺激し合えるだけでなく、それぞれの会の関係者にご来訪頂くので交流が持て、とても視野が広がる思いが致します。



結局のところ画廊展覧会では、作品制作だけではなく、実は作品のプレゼン(展示)が一番肝心なのだ改めて気付かされました。他所の公募団体の特色の違いも大変勉強になります。

個人的には、私は新日本美展では猫の絵ですが、この会では、桜の花と小鳥にも毎年挑戦しています。小鳥の中でも雀の絵は三回目。ようやく形になって来ました。さあ次は何に挑戦しましょう。実験展覧会で腕を磨きつつ楽しんでいきます。

25 年度会費納入のお願い

なるべく早めに納入して下さい。郵便口座を開設して通信送金しますと手数料が無料です。

- 委員 ¥35,000
- 会員 ¥30,000
- 準会員 ¥25,000
- 会友 ¥20,000

郵便口座番号 00170-7-719971  
(新日本美術協会)  
会計 鈴木忠義 Tel.045-832-0504  
携帯 090-3452-3564